

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
【部門区分】第7部門第3区分  
【発行日】平成19年1月11日(2007.1.11)

【公開番号】特開2003-209859(P2003-209859A)  
【公開日】平成15年7月25日(2003.7.25)  
【出願番号】特願2002-5140(P2002-5140)  
【国際特許分類】

**H 0 4 N 13/02 (2006.01)**

【F I】

H 0 4 N 13/02

【手続補正書】  
【提出日】平成18年11月16日(2006.11.16)  
【手続補正1】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】特許請求の範囲  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【特許請求の範囲】

【請求項1】 露出制御および焦点制御が可能な光学系を介して得られた映像情報に基づいて、前記光学系を制御するように構成されたフィールド順次記録方式の立体映像撮影装置であって、

左右の映像を識別可能なフィールド識別手段と、

前記フィールド識別手段の出力によって左右の映像情報を分離し、この分離された映像情報を各々個別に処理する処理手段を有し、得られた各々の処理結果に基づいて前記光学系を制御する制御手段と、  
を有することを特徴とする立体映像撮影装置。

【請求項2】 請求項1に記載の立体映像撮影装置において、

前記処理手段は、前記映像情報の左右分離手段、露出演算手段および露出基準値に対する大小を判断する判定手段を含んでいることを特徴とする立体映像撮影装置。

【請求項3】 露出制御および焦点制御が可能な光学系を介して得られた映像情報に基づいて、前記光学系を制御するように構成されたフィールド順次記録方式の立体映像撮影装置であって、

左右の映像を識別可能なフィールド識別手段と、

前記フィールド識別手段の出力によって左右の映像情報を選択し、この選択された映像情報のいずれか一方のみを処理する処理手段を有し、得られた処理結果に基づいて前記光学系を制御する制御手段と、  
を有することを特徴とする立体映像撮影装置。

【請求項4】 請求項3に記載の立体映像撮影装置において、

前記処理手段は、前記映像情報の左右選択手段、露出演算手段および露出基準値に対する大小を判断する判定手段を含んでいることを特徴とする立体映像撮影装置。

【請求項5】 露出制御および焦点制御が可能な光学系を介して得られた映像情報に基づいて、前記光学系が制御されるフィールド順次記録方式による立体映像撮影方法であって、

左右の映像を識別して、そのフィールド識別出力によって左右の映像情報を分離し、この分離された映像情報を各々個別に処理し、得られた各々の処理結果に基づいて前記光学系を制御することを特徴とする立体映像撮影方法。

【請求項6】 請求項5に記載の立体映像撮影方法において、

前記映像情報を処理する際、該映像情報の左右を分離し、各映像情報に対して露出演算

し、露出基準値に対する大小を判断することを特徴とする立体映像撮影方法。

【請求項7】 露出制御および焦点制御が可能な光学系を介して得られた映像情報に基づいて、前記光学系が制御されるフィールド順次記録方式による立体映像撮影方法であって、

左右の映像を識別して、そのフィールド識別出力によって左右の映像情報を選択し、この選択された映像情報のいずれか一方のみを処理し、得られた処理結果に基づいて前記光学系を制御することを特徴とする立体映像撮影方法。

【請求項8】 請求項7に記載の立体映像撮影方法において、

前記映像情報を処理する際、該映像情報の左右を選択し、各映像情報に対して露出演算し、露出基準値に対する大小を判断することを特徴とする立体映像撮影方法。

【請求項9】 請求項1～4のいずれか1項に記載の手段としてコンピュータを機能させるためのプログラムを格納したコンピュータ読み取り可能な記憶媒体。

【請求項10】 請求項5～8のいずれか1項に記載の各手順をコンピュータに実行させるためのプログラムを格納したコンピュータ読み取り可能な記憶媒体。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

【課題を解決するための手段】

本発明の立体映像撮影装置は、露出制御および焦点制御が可能な光学系を介して得られた映像情報に基づいて、前記光学系を制御するように構成されたフィールド順次記録方式の立体映像撮影装置であって、左右の映像を識別可能なフィールド識別手段と、前記フィールド識別手段の出力によって左右の映像情報を分離し、この分離された映像情報を各々個別に処理する処理手段を有し、得られた各々の処理結果に基づいて前記光学系を制御する制御手段と、を有することを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

また、本発明の立体映像撮影装置において、前記処理手段は、前記映像情報の左右分離手段、露出演算手段および露出基準値に対する大小を判断する判定手段を含んでいることを特徴とする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

また、本発明の立体映像撮影装置は、露出制御および焦点制御が可能な光学系を介して得られた映像情報に基づいて、前記光学系を制御するように構成されたフィールド順次記録方式の立体映像撮影装置であって、左右の映像を識別可能なフィールド識別手段と、前記フィールド識別手段の出力によって左右の映像情報を選択し、この選択された映像情報のいずれか一方のみを処理する処理手段を有し、得られた処理結果に基づいて前記光学系を制御する制御手段と、を有することを特徴とする。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 4 】

また、本発明の立体映像撮影装置において、前記処理手段は、前記映像情報の左右選択手段、露出演算手段および露出基準値に対する大小を判断する判定手段を含んでいることを特徴とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 5 】

また、本発明の立体映像撮影方法は、露出制御および焦点制御が可能な光学系を介して得られた映像情報に基づいて、前記光学系が制御されるフィールド順次記録方式による立体映像撮影方法であって、左右の映像を識別して、そのフィールド識別出力によって左右の映像情報を分離し、この分離された映像情報を各々個別に処理し、得られた各々の処理結果に基づいて前記光学系を制御することを特徴とする。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 6 】

また、本発明の立体映像撮影方法において、前記映像情報を処理する際、該映像情報の左右を分離し、各映像情報に対して露出演算し、露出基準値に対する大小を判断することを特徴とする。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 7 】

また、本発明の立体映像撮影方法は、露出制御および焦点制御が可能な光学系を介して得られた映像情報に基づいて、前記光学系が制御されるフィールド順次記録方式による立体映像撮影方法であって、左右の映像を識別して、そのフィールド識別出力によって左右の映像情報を選択し、この選択された映像情報のいずれか一方のみを処理し、得られた処理結果に基づいて前記光学系を制御することを特徴とする。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 8 】

また、本発明の立体映像撮影方法において、前記映像情報を処理する際、該映像情報の左右を選択し、各映像情報に対して露出演算し、露出基準値に対する大小を判断することを特徴とする。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

同期信号発生回路112はさらにフィールド識別手段として、フィールド識別信号115を出力し(フィールド識別出力)、現在の映像信号が右のものであるか左のものであるかを識別することができるようになっている。このフィールド識別信号115は、液晶シャッタ102R, 102Lの開閉を制御する制御信号としても用いられる。フィールド順次時分割方式(フィールド順次記録)の立体映像撮影にとって最も重要な信号の1つである。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

例として露出制御の信号の流れを説明する。

輝度情報116はまず、左右分離手段131によって右の信号と左の信号に振り分けられる。左の信号は露出演算手段132Lで処理され、右の信号は露出演算手段132Rで各々個別に処理される。両方の演算結果(処理結果)は、つぎの判定手段133に供給される(処理手段)。

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

制御方法は前述した方法(従来例)と基本的には同様であり、最終評価値が基準値(露出基準値)よりも大きい(露出オーバー)場合は、制御手段であるアイリス駆動回路118を負の方向に駆動して、アイリスモータ120を閉じる方向に制御する。逆に露出が基準値より小さい(露出アンダー)場合は、アイリス駆動回路118を正の方向に駆動して、アイリスモータ120を開く方向に制御する。その結果として、露出状態はつねに一定に保たれる。

【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0037】

選択信号330はスライドスイッチ(左右選択手段)の出力であり、撮影者が手動で任意に設定することができるようになっている。右もしくは左の信号を用いてレンズ制御を行う選択ができる。この選択信号330により、選択手段339においてフィールド識別信号115は正論理信号または負論理信号になり、スイッチ手段331によって輝度情報116の右のみ、または左のみの信号を次段に伝達するようになっている。